

(修正案)

第3次国見町子ども読書活動推進計画



国見町教育委員会

第3次国見町子ども読書活動推進計画（素案）

（目次）

第1章 計画について	2
1 計画の趣旨	
2 計画の目的	
3 計画の期間	
第2章 現状と課題	3
国見町子ども読書活動に関するアンケート結果（令和7年6月実施）	
第3章 基本方針と推進体制	
1 基本方針	8
(1) 子どもが読書に親しむ機会の充実のために	
(2) 子どもの読書環境の整備と充実のために	
(3) 子どもの読書活動についての理解の促進のために	
2 推進体制	9
第4章 具体的な取組	
1 子どもが読書に親しむ機会の充実のために	10
(1) 子どもの発達段階に応じた読書活動の推進	
(2) 学校等における子ども読書活動の推進	
(3) 家庭における子ども読書活動の推進	
(4) 地域における子ども読書活動の推進	
(5) 支援を必要とする子どもの読書活動の推進	
2 子どもの読書環境の整備と充実のために	14
(1) 国見町図書館の機能の充実	
(2) 子ども司書活動の充実	
(3) 学校図書室の機能の充実	
(4) 家庭、地域、学校等における連携の構築	
3 子どもの読書活動についての理解の促進のために	16
(1) 推進のための広報や啓発	
(2) 子どもの読書活動に関する情報の収集や提供	
(3) 優れた取組みの奨励と優良図書等の紹介	

第1章 計画について

1 計画の趣旨

子どもの読書活動は、子どもたちが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの（子どもの読書活動の推進に関する法律）であり、子どもたちの健やかな成長に資するため、読書環境の整備は欠かせません。

国見町教育委員会では、令和2年12月に「国見町子ども読書活動推進計画（第2次）」を策定し、子どもの読書活動を推進してまいりました。

令和7年10月には、国見町図書館（以下「図書館」という。）は開館5周年を迎え、「読書の町・国見」の基本となる子ども読書活動として、ブックスタートや読み聞かせ、家読の推進、子ども移動図書館の拡充、子ども司書による学校や図書館での読書推進活動など、家庭と保・幼・小・中と連携した取り組みを行っています。

今般、国の「第5次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」に基づき、「第5次福島県子ども読書活動推進計画」が令和7年度からスタートし、乳幼児期からの発達段階に応じた取組の推進や不読率の低減など「子どもが読書に親しむ機会の充実」ほか3つの柱を掲げ、子どもの豊かな読書環境の充実を図るとしています。

こうした背景をともに、これまでの取組や課題を踏まえ、国見町においても第3次計画を策定し、子どもの読書活動推進に関する新たな指針とし、具体的な取り組みを着実に進めて活動の推進に取り組みます。

2 計画の目的

すべての子どもが発達段階に応じてあらゆる機会とあらゆる場所において、自ら読書の楽しさに気づき、自主的な読書活動を行うことができるよう「国見町子ども読書活動推進計画」を策定し、現状と課題を把握することで地域、家庭、学校などと連携・協働して子どもの読書環境の整備を進めていきます。

3 計画の期間

本計画は、令和8年度から令和12年度までの5年間とします。



国見の未来をひらく 読書のか
～ 着実なる推進で 子どもたちに読書のかを ～

第2章 現状と課題

国見町では、藤田保育所、くにみ幼稚園、国見小学校、県北中学校（以下「学校等」という。）が連携して、読書活動を進めており、幼児期における読み聞かせや家族と一緒にやる家読の推進、児童期からの移動図書や家読、学校での読書時間の確保や子ども司書活動などを行い、一貫した読書活動推進を図っています。図書館司書や学校司書の配置、学校等への図書管理システムの導入など、着実に整備を進め、読書に親しみやすい環境の整備を進めてきました。

令和7年6月に実施したアンケートでは、「本を読むのがとても好き・好き」と答えた子どもたちの割合は、全体で7割を超え、読書の習慣化、読書に対して好感をもって受け入れられていることがうかがえます。しかし、1日の読書時間についてみると、「ほとんど読まない」と答えた小学生が約4割という結果であり、5年前の調査より読まない子が大幅に増加しています。家読をしていないとの回答もほぼ同じ数値を示しており、ほとんど読まない理由として、ゲームやテレビのほうが楽しい、読書が苦手などの理由を挙げています。逆に、中学生においては、「家読をしている」と答えた生徒が6割を超え、前回調査より大幅に伸びており、中学に進むにつれて不読率が高くなるといわれている状況において、この結果は、これまでの取り組みの成果と捉えることができます。

図書館の利用については、学習の場が多様化している傾向があり、図書館イベントの参加状況からも、図書館としての周知方法や働きかけに工夫が必要といえます。

自由記述では、児童・生徒から学校図書室の蔵書に関することや利用方法についての率直な意見が寄せられています。保護者からは、図書館への要望のほかに、家読や読書を好まない子の悩みなど多岐に及ぶ意見や要望が寄せられており、子どもたちの読書活動について、関心が高いことがうかがえます。

国見町子ども読書活動に関するアンケート結果（令和7年6月実施）

○ アンケートの配付数、回収率

調査対象期間を令和7年5月の1か月とし、アンケート調査票により、選択式及び自由記述式、匿名で実施。幼稚園児・小学1年生の保護者へ9問、小学2年生から中学2年生とその保護者へ10問で実施しました。

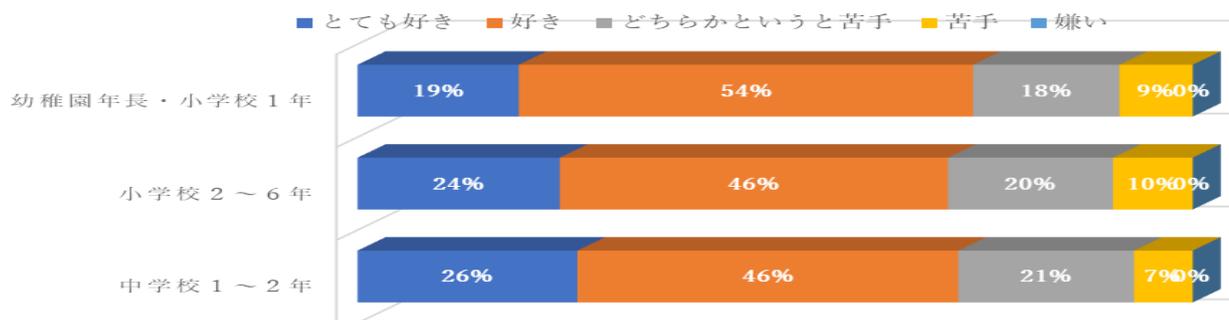
対象者	配布数	回収数	回収率
幼稚園年長児 小学校1年生の保護者	72	57	79.2%
小学校2年生～6年生 児童とその保護者	224	162	72.3%
中学校1年生～2年生 生徒とその保護者	92	58	63.0%
全 体	388	277	71.4%



1 本を読むのは好きですか？（読書への意欲）

（単位：人）

選択項目	とても好き	好き	どちらかという と苦手	苦手	嫌い	計
幼稚園年長・小学校1年	11	31	10	5	0	57
小学校2～6年	38	73	31	15	0	157
中学校1～2年	15	26	12	4	0	57
計	64	130	53	24	0	271



7割以上が、本を読むのが「とても好き」、「好き」と答えており、好感を持って受け入れられていることがうかがえます。

2 この1か月間に本を何冊読みましたか？

（単位：冊）

選択項目	0冊	1冊	2冊	3冊	4冊	7冊	8冊以上	計
幼稚園児(年長)	1	5	7	4	6	4	3	30
小学生	10	25	28	29	34	28	33	187
中学生(1～2年)	2	4	5	8	11	12	16	58
計	13	34	40	41	51	44	52	275



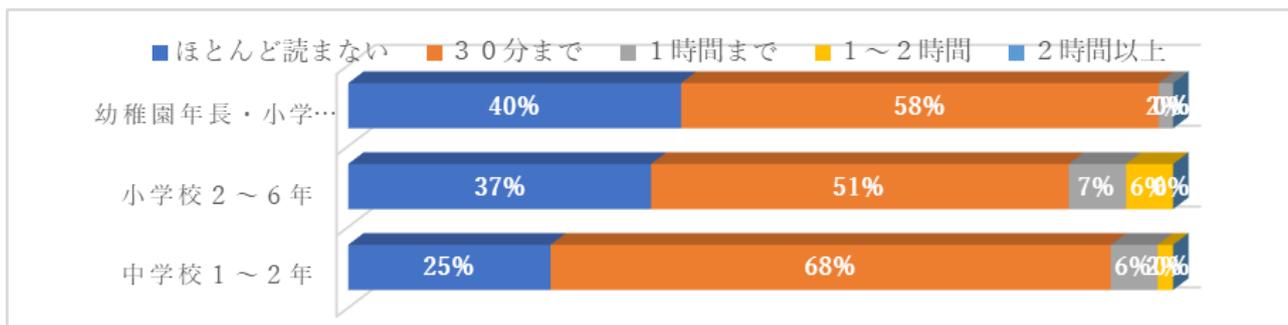
小学生において1か月に1冊も本を読まなかった児童が10名（5.3%）おり、県平均の1.6%を大きく下回っております。学校での朝読や子ども移動図書館事業等を進める中で憂慮する結果で、また、1か月に何冊の本を読んだかについては、小学生は4.4冊と、県平均の11.6冊に比べて大きく下回っており、また、5年前の同調査の6.4冊に比べても下回る結果です。

逆に、中学生は1か月に平均5.5冊の本を読んでおり、県平均の2.7冊を上回り、約3割近くが8冊以上の本を読んでいると答えています。

3 1日の読書時間は？（時間）

（単位：人）

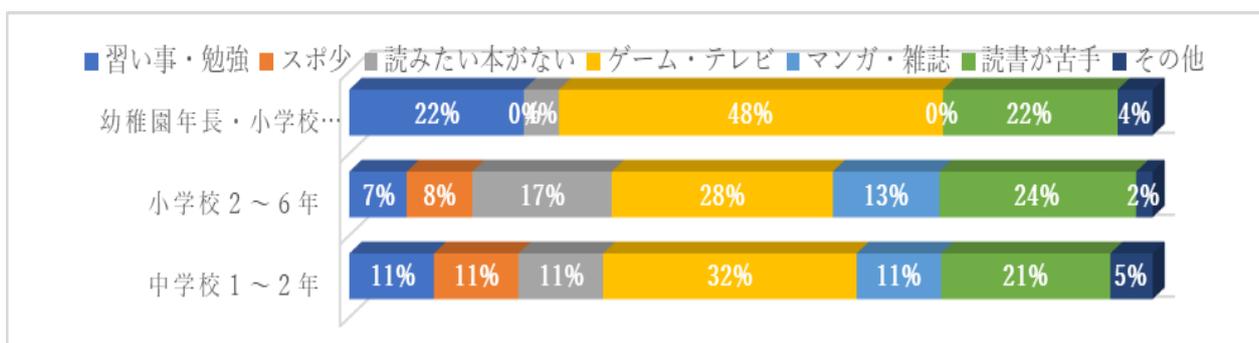
選択項目	ほとんど読まない	30分まで	1時間まで	1～2時間	2時間以上	計
幼稚園年長・小学校1年	23	33	1	0	0	57
小学校2～6年	58	80	11	9	0	158
中学校1～2年	13	36	3	1	0	53
計	94	149	15	10	0	268



「ほとんど読まない」と答えた人はどうしてですか？（複数回答可）

（単位：人）

選択項目	習い事や勉強で忙しい	スポ少などで忙しい	読みたい本がない	ゲーム・テレビなどの方が楽しい	マンガや雑誌が読みたい	読書が苦手	その他	計
幼稚園年長・小学校1年	5	0	1	11	0	5	1	23
小学校2～6年	7	8	17	27	13	24	2	98
中学校1～2年	2	2	2	6	2	4	1	19
計	14	10	20	44	15	33	4	140

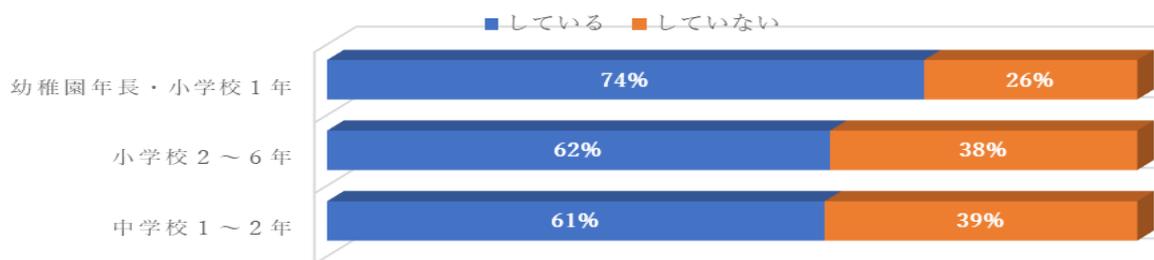


1日の読書時間について、「ほとんど読まない」と答えた幼稚園児・小学生は約40%おり、前回調査の26%より増加し、読まない子が大きく増加しています。理由は「ゲームやテレビ、漫画等が楽しい」また、「読書が苦手、読みたい本がない」となっており、中学生については、前回調査と同じ約25%という結果になっています。

4 家読をしていますか？

(単位：人)

選択項目	している	していない	計
幼稚園年長・小学校1年	42	15	57
小学校2～6年	95	58	153
中学校1～2年	35	22	57
計	172	95	267

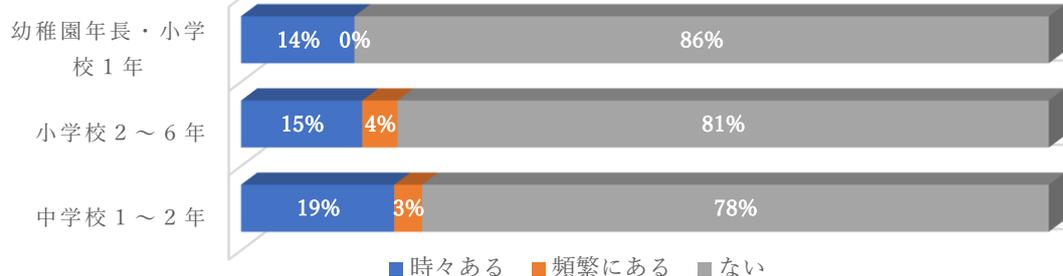


園児や低学年生児童は、家族で家読が積極的に取り組まれている反面、学年が上がると約4割は実施していない状況です。小学生と中学生がほぼ同じ割合であることから、小学校から家読が習慣化されれば、継続した取り組みとなることが期待されます。

5 スマートフォン、タブレットなどの電子書籍で読書をすることがありますか？

(単位：人)

選択項目	時々ある	頻繁にある	ない	計
幼稚園年長・小学校1年	8	0	49	57
小学校2～6年	24	7	129	160
中学校1～2年	11	2	45	58
計	43	9	223	275

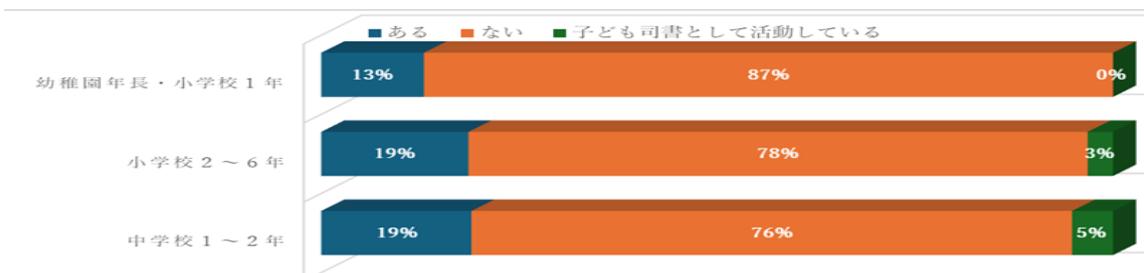


電子書籍での読書は、学年が上がるほど利用者が増えますが、「頻繁にある」のは、小・中学生ともに3～4%と低い状況です。今後、情報機器の発達と普及といった子どもたちを取り巻く環境により、どのように変化するのか注視する必要があります。

6 子ども司書のおはなし会や図書館主催のイベントに参加したことはありますか？

選択項目	ある	ない	子ども司書として活動している	計
幼稚園年長・小学校1年	7	47		54
小学校2～6年	29	122	5	156
中学校1～2年	11	44	3	58
計	47	213	8	268

(単位：人)



子ども司書や図書館主催のイベントには、幼稚園年長児や小学校1年生の約87%が、参加したことがないと回答しており、学年が上がるほど参加率が増加する傾向があるものの定着していないことが読み取れ、周知方法等の工夫が必要といえます。

7 国見町図書館を利用したことがありますか？

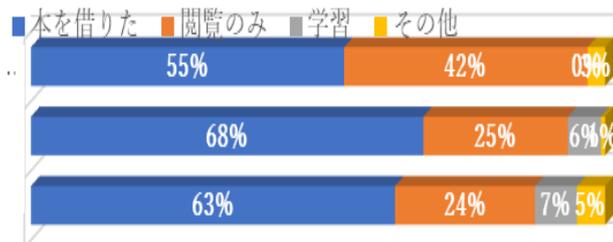
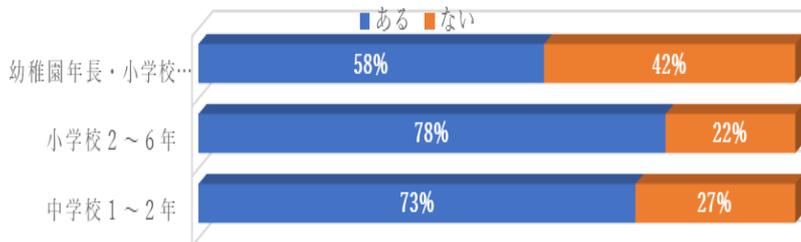
(単位：人)

選択項目	ある	ない	計
幼稚園年長・小学校1年	33	24	57
小学校2～6年	126	35	161
中学校1～2年	41	15	56
計	200	74	274

どのように利用されましたか？

(単位：人)

本を借りた	閲覧のみ	学習	その他	計
18	14		1	33
95	35	8	1	139
26	10	3	2	41
139	59	11	4	213



図書館の利用頻度

選択項目	週に1回以上	月に2～3回	月に1回	半年に1回	その他	計
幼稚園年長・小学校1年	0	5	9	14	4	32
小学校2～6年	3	21	27	59	11	121
中学校1～2年	0	8	12	17	4	41
計	3	34	48	90	19	194

児童・生徒の7割以上は国見町図書館を利用しており、5年前の調査より微増しています。そのうち、約3割以上が本を借りる以外に、閲覧や学習の場としても利用しています。
利用している児童・生徒のうち、「半年に1回」程度の利用が半数近くを占め、利用頻度は高くありません。来館の手段は「家の人と一緒に、又は自動車で送迎してもらう」としています。

第3章 基本方針と推進体制

1 基本方針

子どもに読書の楽しさを実感させ、生涯にわたる望ましい読書習慣を形成させるためには、家庭、地域、学校等がそれぞれの役割や責任を明確にし、社会全体で取組みを進めていくことが重要です。そこで、次の3点を基本方針とし、推進体制を整備、具体的な取組みを明らかにしていきます。

(1) 子どもが読書に親しむ機会の充実のために

子どもが自主的に読書を楽しむようになるためには、子どもが成長の段階で読書に親しむ機会を充実させることが大切です。

このため、乳幼児期から親子での読み聞かせ等で本に親しむなど、家庭を原点として、地域、学校等において子どもが本に親しむ機会の充実をめざします。

また、子どもが自ら読書に親しみ、生涯にわたる読書習慣を身につけることができるよう、図書館、学校等において、子どもの読書活動推進に向けた特色ある取組みが展開されることを目指します。

(2) 子どもの読書環境の整備と充実のために

地域全体で子どもの読書活動を推進していくためには、子どもの目的や意欲に応じ、読みたい本や知りたい情報を提供するための読書環境の整備と充実が大切です。

このため、図書館と学校図書室、保育所、幼稚園などの子どもが活用する公共施設においては、ともに連携を図り、より身近によい本が提供できる環境を整え、その機能の充実や、子どもの読書活動を支える人の資質向上をめざします。

また、取組みの充実を図るため、子どもの読書活動推進に活躍しているボランティアや民間団体を含め、家庭、地域、学校等が連携・協力する仕組みの構築を目指します。

(3) 子どもの読書活動についての理解の促進のために

子どもは、読書によって、言葉を学び、表現力と創造力を豊かにして、物語から新しい世界を知り、新しい自分自身を発見していくことができます。

よい本との出会いは、多くのことを学ぶとともに、自分の思いを表現する豊かな人間性がはぐくまれ、よい本との出会いの多くは、周囲の大人からの働きかけや関わりにより始まります。

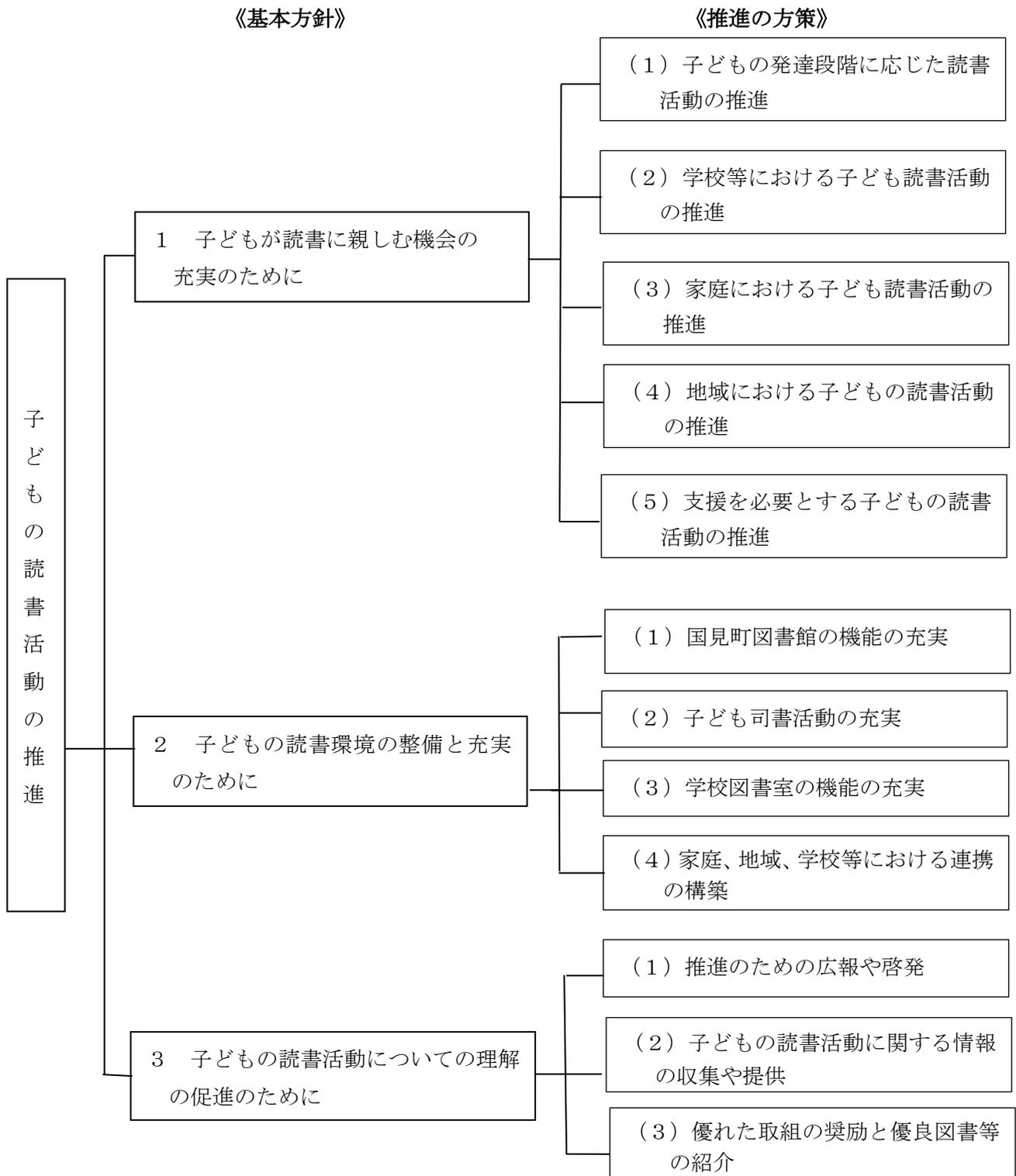
このため、子どもの読書活動の意義や重要性について、町民に広く理解が深まるよう努めるほか、優れた実践の拡大や一層の定着に努め、町全体として子どもの読書活動の推進が図られることを目指します。



2 推進体制

学校図書館担当者や有識者で構成する「国見町子ども読書活動推進会議」において、計画の進捗状況についての確認を行い、事業の展開や広報活動等に対する提言をいただきながら、関係団体等と連携、協力して推進します。

〈国見町子ども読書活動推進計画の体系図〉



第4章 具体的な取組

1 子どもが読書に親しむ機会の充実のために

(1) 子どもの発達段階に応じた読書活動の推進

生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむ習慣を形成するためには、乳幼児期から発達段階に応じた読書活動が行われることが重要です。発達段階の特性から取り組むべき内容を明確化し、年齢ごとに切れ目のない読書活動の推進を図ります。

<具体的な取り組み>

- 図書館では、3か月乳児検診時のブックスタート事業を継続、新たにセカンドブック事業等の実施し、保護者に対して絵本の紹介と乳幼児期からの読み聞かせの大切さや意義を伝えます。
- 乳幼児期には、本の楽しさに触れる機会をつくるため、保育所、幼稚園においては、積極的に読み聞かせに取り組むとともに、身近な場所に本のある環境づくりに努め、家読、絵本等の貸出を推進します。図書館では、保育所、幼稚園と協力して、読み聞かせやおはなし会など、保護者と乳幼児が読書を一緒に楽しめるような読書イベント実施により家庭での読書活動を支援します。
- 図書館および小・中学校では、子どもたちが興味あるジャンルや調べ学習などの資料を揃え、円滑に提供できる条件を整えます。
- 学校等および図書館の担当者は、それぞれに、発達段階に応じた読書活動を推進する研修等に積極的に参加し、関係者への伝達研修を実施するなど、子どもの発達段階に沿った図書を選定や多様な読書体験等を推進するための指導力の向上を図ります。

セカンドブック事業・・・「ブックスタート」の次の段階として、子どもに年齢にあわせて、絵本のプレゼントなどにより、読み聞かせや子どもとの読書を指導します。家庭による子ども読書習慣の定着を図ります。



(2) 学校等における子ども読書活動の推進

学校等における読書活動は、子どもたちの生きる力を支える確かな学力を身につけるとともに、豊かな人間性や社会性を養う上で基盤となるものです。朝読や家読、推薦図書配置や子ども移動図書館などに取り組み、多様な読書推進に積極的に取り組みます。

<具体的な取り組み>

- 保育所及び幼稚園では、子どもの発達段階に応じた読書活動推進に取り組みます。
- 小中学校では、各教科、特別活動、総合的な学習、探究活動等、教育活動全体において図書室の計画的な活用を図り、読書習慣の形成を推進します。
 - ・読書時間の確保を図り、読書習慣の定着を進めます。
 - ・推薦図書コーナーや児童・生徒相互間の図書紹介、児童・生徒の目に留まりやすい新聞コーナーの設置や記事の読み比べなど、多様な読書体験を増やすための工夫を行います。
 - ・図書室の使い方、借り方・返し方を学ぶオリエンテーション等の充実を図り、気軽に利用できることを周知します。
 - ・児童・生徒に対する図書購入希望調査の実施や自主的な図書委員会活動の推進により、児童・生徒が読書について興味・関心を高め、自ら意欲的に利用しようとする図書室となるよう努めます。
- 司書教諭、学校司書等を中心とした読書活動の推進に関する校内体制の充実を図り、学校の実態に応じた様々な読書活動を展開します。
- 家庭においても読書の意識を高めるため、おたよりなどにより、学校等から保護者や児童・生徒に働きかけ、家読を促進します。
- 幼稚園預かり保育、放課後子どもクラブにおいても、読書活動の積極的な取り組みを進め、読み聞かせ等の様々な機会を提供します。
- 小中学校への個別の学校司書の配置を促すとともに、図書館との連携の強化に努め、特色ある活動を推進します。

.....

家 読・家読（うちどく）とは「家庭読書」の略語で、家庭で本を読むことです。

毎月4（よ）～6（む）のつく日は、家読の日として、ゲームやテレビを控え「本を読む日」として家庭での取り組みを進めています。

学校司書・小中2校で1名配置されており、小学校に週3日、中学校に週2日の体制で勤務しています。

(3) 家庭における子ども読書活動の推進

保護者などから心を込めて本を読んでもらうことは、子どもにとって楽しみであり、情緒の安定や言葉の獲得のためにも大切なことです。本を通して得られる大人と子どものふれあいは、大人との信頼感を深め、子どもの心に幸福感を与えます。

特に、就学前の時期は本と初めて出会う大切な時期です。乳幼児期に絵本や物語等に親しむ体験は、子どもの言葉と心の発達に影響するだけでなく、豊かな人間性を育むうえでも重要です。読書好きな子どもは乳幼児期からの読書体験が深く影響していると言われています。

このため、保護者がより積極的に関わりを持てるよう、図書館と学校等が連携し、民間団体等との協働により、家庭における読書の意義についての理解を促すため、情報提供を積極的に行い、啓発に努めます。

<具体的な取り組み>

- 親子を対象としたイベントや家庭教育支援、ブックスタートなどの機会をとらえ、関係機関が連携して、保護者としての読書の重要性を啓発・認識することにより、家庭で本に親しむ機会を設け、読み聞かせや家読などの読書活動の実践により、読書に親しみ、楽しさを味わう機会を提供します。
- 家庭では、子どもが手に取りやすいところに本を備えるなど、子どもが求める本の積極的な提供や、身近に本に触れる機会を増えるよう支援します。
- 家読を推進し、毎月4～6のつく日は家読の日として、ゲームやテレビを控え「本を読む日」として家庭での取り組みを進めます。
- 図書館や学校等は、家庭で本に親しむ機会を増やすため、おはなし会など、親子や保護者向け図書講座の場の提供に努めます。
- 広報くにもやホームページ、図書館だより、SNSなどを通じて、家読の推進やイベントなどの読書活動の情報を提供します。



(4) 地域における子どもの読書活動の推進

子どもが気軽に本と出会い、読書の楽しさを味わうために、身近な地域において本に親しむ機会を充実させることが大切です。そのためには、図書館が中心となり、学校等、家庭とともに、関係機関や子ども読書活動に取り組む民間団体や図書ボランティアとの連携をより一層図るとともに、それらの活動を支援する必要があります。

図書館は、地域に密着した身近な施設として、子どものニーズをとらえ、読書や学習において、集える場所として、親しみやすい図書館づくりを進めます。

<具体的な取り組み>

- 読書活動の拠点となる図書館は、子どもをはじめ保護者が読書活動について学び、相談することのできる場所であり、気軽に利用できる施設として、利用方法を周知し、利用促進を図ります。
- 家読を進めるためには、保護者の読書に対する理解が必要であり、図書館が中心となり、学校等と協力により、保護者への働きかけを進めます。
- 図書館は、これまで培ってきた「子ども移動図書」を継承します。また、学校図書室との図書資料の相互貸借や連携を図ります。また、幼稚園預かり保育、放課後子どもクラブにおいても、読書活動の推進を図られるよう、支援、連携を図ります。
- 地域において身近に本に親しめるよう、各施設の協力を得て、本の配架を進めます。
- ボランティア団体との支援・連携を図るとともに、図書ボランティアの育成を進めます。

子ども移動図書館・小学校に本を持ち込み、児童へ貸し出しを行います。50年の歴史がある国見町図書館の特徴的な事業です。以前は町内5校に、統合後は国見小学校の1年から3年生まで実施し、令和6年度からは6年生まで対象を拡大しました。本の貸出だけでなく鑑賞教室や創作活動も織り交ぜ実施しています。

(5) 支援を必要とする子どもの読書活動の推進

特別な支援を必要とする子どもや外国籍の日本語が不得意の子ども等が、読書を楽しめる環境を整えることが必要です。

学校等や国見町図書館では、支援を必要とする子どもが読書を楽しむことができるように、読書活動への支援と環境の整備に努めます。

<具体的な取り組み>

- 学校等や図書館において、必要な支援の状況に応じた機材の活用や読み聞かせ等の実施を促進し、必要な支援の状況に応じた参加しやすい環境づくりを進めます。

2 子どもの読書環境の整備と充実のために

(1) 国見町図書館の機能の充実

図書館は、地域における子ども読書活動を推進する中心的な役割を担うべきものであり、子どもが読書により親しむことができるよう機能の一層の充実に努めます。

<具体的な取り組み>

- 児童書の計画的な配置を図り、保護者や子どもが見やすく探しやすい配架など子どもが安心して読書することができる児童コーナーの充実に努めます。
- 司書は、子どもと本を結ぶ役目を担う知識と技術の習得に努め、レファレンスを充実させます。
- 図書ボランティアや子ども司書の養成のため、研修の実施等を推進します。
- アンケートによる利用者の声を十分に反映し、利用者に配慮した運営に努めます。
- 児童・生徒対象の図書館だよりを発行し、読書を促進します。
- 司書教諭及び学校司書との定期的な意見交換等により、保、幼、小中との連携を図り、相互連携を図ります。
- 読書活動推進の中核となる図書館機能の充実は不可欠です。活動を支える図書館司書の複数配置を進めるとともに、子ども移動図書館支援員や図書ボランティアの育成により、図書館機能の充実に努めます。

(2) 子ども司書活動の充実

子ども司書は、講座を受講し、図書館の仕組みや司書の仕事を理解し、本の魅力を紹介する方法などを学び、子ども司書として地域や学校で本と人を結ぶ読書リーダーとなり、学校や家庭、地域で読書の楽しさを伝える活動を行います。

<具体的な取り組み>

- 児童に広く呼びかけ、講座参加を募り、子ども司書の育成確保を進めます。
- 子ども司書は読書リーダーとして、読書の素晴らしさ伝え、本との結びつきをひろめます。
- 子ども司書活動やイベントでの読み聞かせの実施、図書館事業への参加や各種イベントの企画、運営を行います。
- 司書講座で習得した知識や経験をもとに、図書館の貸出業務や子ども移動図書館、子ども司書講座のサポート等を行います。

子ども司書・・・平成26年度より育成を行っており、養成講座を経て、現在82名が子ども司書として認定されています。読み聞かせ会や各種イベントなどの活動を企画運営し、国見町図書館の特徴的な活動のひとつです。

(3) 学校図書室の機能の充実

学校図書室は、学習を支援する場であるとともに、子どもにとって身近な読書活動の場として、学校における読書活動の中核的な役割を担うことから、児童生徒の多様な興味・関心に応える機能の充実が必要です。

<具体的な取り組み>

- 小・中学校の図書室の資料について、学校図書室の図書標準を満たすとともに、子どもの多様な関心に対応する計画的な資料の配置を支援します。
- 「学校図書館図書整備等5か年計画」に基づく、読書環境の整備が進められるよう、適切な予算措置を求めています。
- 学校図書室への図書管理システム導入により、本の貸出返却、図書資料の検索、予約など、図書の管理の円滑化、利便性向上が図られましたが、利用しやすい配架とともに、図書の選定、廃棄、更新等、使いやすい図書室の整備を支援します。
- 小、中学校の実情に合わせた効果的な図書室の運営や、特色ある環境づくりの工夫を紹介し、支援します。
- 地域の活動団体やPTAと連携しながら、図書室の整備に向けた保護者や地域の人材による図書ボランティア活動を促進します。

第6次「学校図書館図書整備等5か年計画」・・・文部科学省において、令和4年度から8年度を対象期間とし策定した、学校図書館整備に関する6次の計画。図書基準や図書の更新、新聞の複数配備、学校司書の配置を掲載し、地方財政措置が盛り込まれています。

(4) 家庭、地域、学校等における連携の構築

子どもの読書環境の整備と充実を図るためには、家庭、地域、学校等におけるそれぞれの役割分担を踏まえた上で、相互の連携の構築が必要です。

<具体的な取り組み>

- 保護者と学校等の間において、それぞれの子ども読書活動に関する情報を相互に交換することにより、家庭と学校がともに子ども読書活動に取り組む仕組みづくりを促進します。
- 図書館と地域団体が協力し、「おはなし会」を行うなど、親子が魅力ある読書活動と一緒に体験できる場を提供します。
- 図書館が学校と連携し、学校における多様な読書活動を推進します。
- 地域団体と学校等が協力し、学校等で読み聞かせやブックトークを実施するなど、子どもたちが読書の楽しさを実感できるような連携強化を図ります。

3 子どもの読書活動についての理解の促進のために

(1) 推進のための広報や啓発

子どもの読書活動に関わる人はもとより、広く町民の理解と関心を高め、子どもの読書活動を推進するためには、日常の広報・啓発の取組みに加え、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるために定められた「子ども読書の日」等の機会をとらえ、広報・啓発に努める必要があります。

<具体的な取り組み>

- 「子ども読書の日」「こどもの読書週間」「読書週間」の機会にあわせ、広報くみに「図書館へ行こう」のコーナーなどを活用するなど、各種媒体による広報・啓発に努め、読書活動の推進に向けた気運が一層高まるよう努めます。
- 「子ども読書の日」等における取組みとして、おはなし会等の実施や児童書の展示等により、子ども読書活動への関心を高めるよう努めます。

(2) 子どもの読書活動に関する情報の収集や提供

子どもが本に出会い、読書に親しみ、また、楽しむためには、子どもの読書活動に関する情報がいつでも、どこでも、だれでも利用できることが大切です。

<具体的な取り組み>

- 学校等や図書館では、民間団体、図書ボランティアによる子どもの読書活動推進に係るそれぞれの特色を活かした取組みに関する情報を収集し、ホームページやSNS、図書館だよりの活用により、広く町民への情報の提供に努めます。

(3) 優れた取組みの奨励と優良図書等の紹介

学校等や図書館では、子どもの読書活動の推進のために、民間団体、ボランティア等におけるそれぞれの特色を活かして子どもの読書活動推進に取り組むよう働きかけを行うとともに、その優れた取組みを奨励し、広く紹介します。

推薦図書や課題図書をはじめ、発達段階に応じたブックリストの作成など、優良図書の紹介に努めます。

<具体的な取り組み>

- 学校等や図書館において、優良図書を紹介するとともに、図書館と学校図書室が協力し、発達段階に応じたお薦めの本を提示できるよう努めます。
- 優れた取組みを実施している学校や団体等をホームページや広報誌等で紹介するなど、その取組みを奨励します。
- 保護者や教師、司書などのお薦め本を、図書館だよりなどで紹介します。